

Fujizack 通信④



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。

【第4号】令和2年8月26日 文責：校長

8月19日……。ふじざくら支援学校に、再び笑顔と笑い声の日常が戻りました。

夏休み中に、子どもたちの怪我、病気、事故などの報告はなく、全員が元気に2学期始業式を迎えることができたことは、何より嬉しいことです。今学期、子どもたち一人一人が、それぞれの輝きをどのように見せてくれるのか……。今は、それがとても楽しみです。

さて、今回は【子どものしつけや指導の方法】について考えてみます。

家庭訪問や保護者懇談などの機会を通して、子どもたちの家庭での生活の状況や、保護者の悩みなどについて知ることができます。保護者の悩みの一つに、「親の言うことを聞かない」「しつけが定着しない」「何回も同じ失敗を繰り返す」など、子どもを育てるときにどのように指導・支援をしたらよいかという内容を、ちりりほりり耳にします。一人一人の子ども状態によって、その方法や内容は全く違うために、明確に正解を答えることはできませんが、【提案・交渉型アプローチ】という一つの視点について紹介します。

子どもが言うことを聞かないときに、大人がイライラして強く叱ってしまったり、諦めて子どものやりたい放題にさせてしまっ

「子どもが〇〇をやりがらない」とき、あなたなら どうしますか？

子どもを叱ってやらせる

そのまま放っておく
子どもの言うとおりにする

いくつかの方法を
「提案」・「交渉」する

たりすることはありますか？【提案・交渉型アプローチ】とは、それらとは別のもう一つの方法です。強引にやらせるのではなく、また、子どもの要求のままにさせるのでもなく、お互いに歩み寄りながら妥協点を探っていきます。子どもは、大人にやらされるのではなく自身で決定することにより、行動に意欲が生まれます。さらに、やり終えた後には成功体験を得ることができます。「できる」ことを実感することで自信が生まれ、自尊心が高められていきます。大人から強い口調で叱られて、嫌な気分になりながら行動したときとは、後に残る印象が大きく違うのです。このような指導・支援の方法はいかがでしょうか？

これは、発達障害の子どもたちへの支援方法として、私の知人である武田鉄郎氏が叱らないけど譲らない支援と位置づけ提唱しているものですが、発達障害に限らず全ての子どもたちに応用できるのではないかと考えています。「叱責」や「放任」ではない「提案・交渉型」の指導・支援について、ぜひ参考にしてみてください。なお、書籍については、本校図書館でも所蔵していますので、よろしければお読みください。

【書籍紹介】発達障害の子ども「できる」を増やす提案・交渉型アプローチ(学研プラス)

武田鉄郎(和歌山大学大学院教育学研究科教授)編著

皆さんは、夏を「何」で実感していますか？ 私は、【神明の花火】を見ることです。

毎年、8月7日は仕事を定時に切り上げ、交通渋滞の前に帰宅します。自宅のベランダに肴を準備して、午後7時の打ち上げ開始をワクワクしながら待つのです。しかし、今年はコロナのために花火は中止で、私の年中行事は流れてしまいました。8月……何とも物足りなさが残る今年の夏でした。